

平成27年度第1回我孫子市廃棄物基本問題調査会議事概要

1. 会議の名称 我孫子市廃棄物基本問題調査会
2. 開催日時 平成27年6月18日(木) 午前10時から
3. 開催場所 我孫子市役所庁舎分館2階 小会議室
4. 出席委員 米澤外喜夫(会長)、染谷正行(副会長)、小澤明日美、関口均、玉田千代子、井下田猛、中野優、柳裕子、蘇理和江、大格登(以上10人)
欠席委員 谷川尚哉、米川栄子、寒河江志げ子(以上3人)
事務局(市) 宮田環境経済部参与、増田課長、伊藤課長補佐、川口主査長、竹内主査長、野村主査長、松澤主査
5. 議題 (1) 新たな廃棄物処理施設の整備計画の進捗状況について
(2) その他
6. 公開 公開
7. 傍聴人 2人
8. 会議の内容
(1) 新たな廃棄物処理施設の整備計画の進捗状況について
循環型社会形成推進地域計画の素案と他自治体の計画について、事務局から当日資料の説明を行った。
【主な質疑回答】
委員 焼却施設に関する具体的な説明はないのか。
事務局 メーカーへの調査を準備している段階なので、今回はごみ減量等の施策についてご議論いただきたい。
委員 任意の半透明袋で出せる我孫子市が、マイバッグ運動を推進しても意味がないのではないのか。
事務局 国を挙げての取り組みであり、書き込む必要がある。また、過剰包装の商品を買わないという意識を持っていただきたいという思いもある。
委員 家庭ごみの有料化について、どのように進めていくのか。
事務局 家庭ごみの有料化は市民の負担増とともに行政コストの増加も招くため、ごみの削減がどうしても進まない場合に進めていきたいと考えている。
委員 小規模事業者のごみについて、集積所に出たものを収集してしまっているのではないのか。
事務局 集積所に事業所由来と思われるごみがあった場合は、収集しないよう委託事業者徹底している。

委 員 我孫子市は、他の自治体と非常に多くの品目を資源化しており、私も JICA のシニアボランティアとして海外で事例紹介しながら取り組んできた。

委 員 地元の理解はどの程度得られているのか。

事務局 概ね8割程度と考えている。

委 員 来年度、基本計画のパブリックコメントを実施したいと考えている。

委 員 地元の感触はどうか。

事務局 生活に必要な施設であるという認識はいただいている。農業経営をされる立場で、できれば他の場所にしてほしいという意見を持つ方もいる。

委 員 サーマルリサイクルで売電が中心になると思うが、余熱を利用した施設の設置について検討していくのか。

事務局 余熱利用施設として温浴施設やスポーツジム等が想定されるが、地元を含めた市民の意見を計画に反映していきたい。

委 員 現在、つつじ荘に余熱供給を行っているか。

事務局 クリーンセンターの焼却施設から距離が離れており、効率的な熱供給ができないため、行っていない。

委 員 ペットボトルやプラスチックを燃やして熱量を確保したいとの説明があったが、燃やした後の有害物質除去のために、売電収入よりもコストがかかってしまうのではないか。

事務局 ペットボトルは燃やさずに、今までどおり資源化する。新たな焼却施設は高度処理が基本になるので、コスト増の要因になるとは考えていない。

委 員 ソーラー発電設備は設置するか。

事務局 施設整備計画の中で検討する。

委 員 運営についても民間活力を最大限活用していただきたい。余熱利用施設や周辺整備も含めて民間に任せることができないか。

事務局 P F I 方式による事業実施については検討していくことになる。施設へのアクセス道路の整備などと合わせて総合的に検討していきたい。

(2) その他

次期の廃棄物基本問題調査会の委員構成について、事務局から説明を行った。